



ALSOプロバイダーコース in 鹿児島

Advanced Life Support in Obstetrics(ALSO)とは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を身につけ、伸ばすための教育コースです。また産婦人科医のみならずプライマリケア医が分娩を扱えるようになることを意図した訓練でもあります。1991年にACLSとATLSを参考にして、ウィスコンシン州の一般診療医師二人がALSOを考案しました。1993年にAmerican Academy of Family Physicians (AAFP-米国家家庭医学会)によってコース権利は認可され、現在全米ではほとんどの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーがALSOを受講することを義務づけられています。また米国の家庭医レジデンシープログラムのうち、78%がALSOをプログラムに導入しています。さらにALSOコースは世界的に普及活動が行われており、20周年を迎えた2013年には、63カ国、16万人の受講生がALSOプロバイダーコースを完了しています。

コースの教材は、シラバス(教科書)、レクチャー、実地訓練のためのマネキンを使用したワークショップです。筆記試験とマネキンによる実技試験(メガデリバリー)がコースの終わりにあります。ALSOは分娩室における産科の救急的対処を強調していますが、その他に出産前のリスク評価、妊娠初期の性器出血、患者-医師関係、出産危機における両親のサポート、そして医療過誤リスクの減少といったテーマも含まれています。プロバイダーコースは2日間にわたって行われます。妊娠初期の合併症、難産、妊娠の内科的合併症、妊娠後期の性器出血、分娩後大出血、早産、前期破水、妊婦の蘇生法、そしてマタニティケアにおける安全性の8つのレクチャーがあります。少人数グループによるワークショップは、肩甲難産、胎位・胎向異常(骨盤位分娩)、鉗子と吸引、分娩中の胎児監視、症例検討の5つです。オプション・ワークショップとして会陰縫合、帝王切開、超音波検査、出産危機における両親への対処、そして新生児蘇生の5つから適宜行われます。プロバイダーコースを受講し試験に合格した場合は、参加者は5年間有効の認証を受けることができます。

日本では2008年11月に金沢で日本初のプロバイダーコースが開催されて以来、既に全国で150回を超えるコースが開催されており、コース修了者は4,000名を超えました。参加者は産婦人科医、プライマリケア医、研修医、救急医、助産師、そして医学部生などであり、これまで、現在、あるいは近い将来の日本の周産期医療体制において、分娩や産科救急に関わる可能性のあるすべての医療人が参加しています。

産科救急医療は、産婦人科医だけで維持し続けることが難しい状況になりつつあることは周知の事実です。日本全国のすべての地域で、できるかぎり同じレベルの産科医療を維持するために、産科医療に関わりたいという志を持った人たちが教育を受けられる場所を多く提供し、最低限必要な医療チーム体制をあらゆる医療圏に確保する必要があります。まさにその足がかりとなるトレーニングコースがALSOです。

ALSOプロバイダーコース in 鹿児島

主催：鹿児島市立病院、鹿児島 ALSO 実行委員会

共催：NPO 法人周生期医療支援機構

日時：平成 28 年 1 月 16 日（土）8:30～19:00, 17 日（日）8:00～17:30（予定）

場所：鹿児島市立病院（鹿児島市上荒田町 3 1 番 1 号）

定員：35 名（医師（研修医を含む）、助産師など） 公募あり

費用：45,000 円 ※支払方法は受講可否とあわせて通知します。

参加申し込み方法：題名に「ALSO 受講」と記載し、下記アドレスへ必要事項を記入した参加申請フォームを添付の上お申し込み下さい。

E-mail: kagoshimaalso@gmail.com

参加申し込み必要事項：

- ① 氏名
- ② 名前のふりがな
- ③ ローマ字表記（例 西郷隆盛 Saigo Takamori）
- ④ 所属病院
- ⑤ 職種及び診療科
- ⑥ 役職
- ⑦ 卒業年度（西暦）
- ⑧ 現職経験年数（研修年数）
- ⑨ 現住所
- ⑩ E-mail アドレス
（携帯メールアドレス不可・1つのアドレスで二名以上の応募は不可）
- ⑪ 電話番号（当日連絡がつくもの）

締め切り：平成 27 年 11 月 20 日（金）必着



【問い合わせ先】

鹿児島市立病院 新生児内科 担当：内藤

電話：099-230-7000

Mail：kagoshimaalso@gmail.com